

第7章 その他

7.1 用語集

暗きよ(あんきよ) →p29、49、56、66、84、99、125

田畑の地下に埋設されたパイプや溝で、余分な水を排出する排水路。雨水やかんがいの余水を流し込み、ため池等からの排水にも用いられる。水田の水位管理において重要な施設。

以浅(いせん) →p45、80、82

「～メートル以浅」のように用いられ、ある基準よりも浅い水深や区域を示す表現。例えば「水深1m以浅」は1mより浅い範囲を指す。浅瀬を利用する生きものや作業範囲を示す際に使われる。

逸出(いつしゅつ) →p15、62、97、98、99、119

飼育・養殖下の生きものが飼育設備等から逃げ出し、自然環境に出ること。

かいぼり →p48、98、100

池干し。池や沼、ため池等の水を抜き、一定期間干して、清掃、堤や水路の点検補修を行うこと。あわせて、底泥や水草を除去しながら生きものを捕獲する管理作業が行われることがある。水質改善や外来魚・外来ザリガニの駆除に用いられ、干出期間を設けることで底質環境のリセット効果も期待される。

かんがい期(かんがいき) →p48、96、98、143

川やダム等から水を引いて田畑をうるおす「かんがい」が集中的に行われる期間のこと。一般に水田では、田植開始の4月頃から稲刈りが行われる9月頃までを指す地域が多い。

環境 DNA(eDNA)(かんきょうでいーえぬえー) →p8、114、120、121

生きものが体外に排出した DNA 断片が水や土壌中に存在するものを指す。採水した試料からターゲット種の DNA を解析することで、生きものを直接捕獲せずに存在・分布を把握できる。

額角(がつかく) →p19、21、43、63

甲殻類の頭部前方に突き出した角状の部分。形や長さ、側縁の棘の有無が種の識別等に用いられる。アメリカザリガニでは額角の形態が在来種との識別ポイントの一つ。

集水ます(しゅうすいまたす) →p5、28、29、56、66、77、79、84、89、96、97、125

用排水路や暗きよに設けられるコンクリート製のます構造で、周囲からの流水を集めて取り込む施設。取水口からの水量を調節し、下流の用排水路やほ場へ水を導く役割を持つ。なお、本手引の実証調査において調査対象とした集水ます(東海農政局)は、用排水路(組立水路)の合流箇所や直角に折れ曲がる箇所に設置される合流ますや屈折ますであり、このような「ます」では一般的に水路底が深くなるため、アメリカザリガニが留まりやすく、効率よく捕獲することができる。

飼養(しょう) →p4、12、15、134、137、140、164

人が管理下で動物を飼い、給餌や環境管理を行うこと。

順応的管理(じゅんのうてきかんり) →p7、122、130

管理の結果をモニタリングにより評価し、その評価結果に合わせて管理方針等を見直していく「試行錯誤型」の管理手法。アメリカザリガニの防除では、捕獲数の増減や駆除後の生態系の回復状況等を CPUE や生きもの調査等のデータに基づいて評価し、漁具の種類や設置場所、駆除頻度等を見直し、駆除作業をより効果的に実施できるように改善していく。

セメント腺(せめんとせん) →p19、20、23、85、86、87、94

甲殻類の雌が卵を産み付ける際に粘着物質(セメント)を分泌する腺。アメリカザリガニでは腹肢に卵を付着させて抱卵するため、この腺からの分泌物が卵の固定に重要な役割を果たす。卵の保護やふ化成功に関わる生殖器官。

セルビン →p72

河川・湖沼等での魚類等の捕獲に用いられる漁具の一種。セル瓶と書くこともある。透明な筒状で、小さな穴から入った魚が出にくい構造。

多面的機能支払交付金(ためんてききのうしはらいこうふきん) →p6、126、133、148、156、165

農地や用排水路等の多面的機能(洪水緩和、生物多様性保全等)を維持・発揮する地域活動を支援するための交付金制度。水田や用排水路の草刈り・泥上げ・外来種対策等の活動費に充てられる。

チムニー →p30

アメリカザリガニが巣穴を掘る際、掘削された土が入口の上に塚状に盛り上がっている箇所のこと。雨季等水位変動の大きい環境で見られ、巣穴内への酸素供給や浸水回避に役立つと考えられる。チムニーの有無や高さは活動状況の指標にもなる。

低密度管理(ていみつどかんり) →p48、49、96、100、101、102、109、111、112、123、126、128、129、145、147、164

個体群の密度を低い水準に抑えて維持する管理手法。アメリカザリガニに対し、集中的な捕獲後も継続的に捕獲圧をかけることで再増殖を防ぎ、在来生物への影響を小さく保つことを目的とする。完全駆除が難しい場合の現実的な管理目標とされる。

頭胸甲長(とうきょうこうちょう) →p19、43、44、46、54、74、85、90、107、108、111、136

額角の先端付近から頭胸甲後端までの長さを測った体サイズの指標。甲殻類の成長や年級群構造の把握に広く用いられる。アメリカザリガニの調査では、個体の成熟度や性比の解析にも利用される基本計測項目。

特別採捕許可(とくべつさいほきよか) →p4、41、45、55、137、138、139

都道府県が定めている漁業調整規則により禁止又は制限されている採捕に関する事項について、調査研究や教育実習等の目的で当該都道府県が特別に適用除外とする許可。採捕する場所・期間・採捕方法等を限定して許可される。アメリカザリガニの調査・防除を行う場合に必要となることがある。

ネイチャーポジティブ →p149

自然環境の悪化を止め、2050年までに生物多様性を回復軌道に乗せることを目指す国際的な考え方。外来種対策や生息地保全を通じて自然資本を増やしていく取組を含む。

非かんがい期(ひかんがいき) →p39、48、49、79、84、92、96、98

水田等で用水を引かず、湛水管理を行っていない時期。降雨や地下水に依存する水位変動が大きく、暗きょや用排水路では水量が減少しやすい。

捕獲圧(ほかくあつ) →p89、102、107、108、109、129、132

人間による捕獲(漁獲・駆除)の強さや頻度を表す概念。トラップ数や設置期間等によって決まり、外来種防除では高い捕獲圧を継続的にかけることで個体群を低密度に抑える。CPUEと併用して管理効果を評価する。

抱稚仔(ほうちし) →p24、50、92、94

卵が孵化した後も、雌の腹肢に稚ザリガニが付着している状態。アメリカザリガニでは稚仔が数回脱皮するまで母親に付着して過ごし、その後親から離れて分散する。抱稚仔の観察は、繁殖成功や再生産のタイミングを示す指標となる。

抱卵(ほうらん) →p18、23、24、44、46、50、51、62、63、85、88、89、90、92、94、170

雌が産卵後、腹部の腹肢に卵を付着させて保持する状態。アメリカザリガニでは抱卵期間中、雌は巣穴や隠れ家で卵を保護し、脚で水流をおこして酸素供給を行う。抱卵個体の出現時期は繁殖期の把握に重要。

捕食圧(ほしょくあつ) →p25、100

捕食者が被食者集団に及ぼす捕食の強さを表す概念。アメリカザリガニが増加すると、水生昆虫や両生類卵・オタマジャクシ等への捕食圧が高まり、生態系構造の変化を引き起こすことがある。逆に、サギ類や魚からアメリカザリガニへの捕食圧も個体群の制御要因となる。

ほ場(ほじょう) →p32、37、38、77、84、85、92、93、94、95、96、115、152

農作物を栽培している田畑等の農地を指す用語。

溶存酸素量(ようぞんさんそりょう) →p23、30

水中に溶けている酸素の量を示す指標で、単位はmg/L等で表される。甲殻類や魚類の生息にとって重要な環境要素であり、低酸素状態はストレスや死亡を引き起こす。

CPUE(Catch per unit effort)(しーぴーゆーいー)

→p45、46、77、78、79、101、102、103、104、105、106、107、108、111、112、113、115、116、121、128、

単位努力量当たり捕獲数という。一定の努力量(漁具1基・1回・1晩等)当たりを得られる捕獲個体数を示す指標。資源量や捕獲効率の評価に用いられ、アメリカザリガニの防除ではトラップ1基1晩当たりの捕獲数等で算出する。時間や場所ごとのCPUEの変化から、個体群密度や管理効果を推定する。

7.2 参考文献

- 1 環境省 HP:「条件付特定外来生物アカミミガメ・アメリカザリガニの規制について」
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/regulation/jokentsuki.html>
- 2 川井唯史, 高畑雅一, Bondar, Carina, 後藤太一郎, 蛭田眞一, Jones, Julia P.G, Min, Gi-Sik, 長山俊樹, 中田和義, 布川雅典, 大高明史, 岡田美徳, 上野正樹. (2012). ザリガニの生物学.
- 3 自然環境研究センター. (2019).
- 4 沖縄奄美自然環境事務所 HP. (2024).
- 5 愛媛県 HP. (2025).
- 6 環境省 HP: 特定外来生物同定マニュアル.
https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual/7hp_kokakurui.pdf
- 7 豊田幸詞, 関慎太郎. (2014). 日本の淡水性エビ・カニ: 日本産淡水性・汽水性甲殻類 102 種.
- 8 豊田幸詞, 関慎太郎, 駒井智幸. (2019). 日本産淡水性・汽水性エビ・カニ図鑑.
- 9 Lyko, F. (2017). The marbled crayfish(Decapoda: Cambaridae)represents an independent new species. *Zootaxa*, 4363 (4): 544-552.
- 10 Luong, Q.-T., Shiraishi, R., Kawai, T., Katsuhara, K. R. and Nakata, K. (2023). Reproductive biology of the introduced red-swamp crayfish *Procambarus clarkii* (Girard, 1852) (Decapoda: Astacidea: Cambaridae) in western Japan. *Journal of Crustacean Biology*, 43 (4): ruad063.
- 11 国立環境研究所 侵入生物データベース
- 12 財団法人リバーフロント整備センター. (1996). 川の生物図典. 山海堂
- 13 Qinghui Zeng, Mingzhong Luo, Lirong Qin, Chao Guo, Jiashou Liu, Tanglin Zhang, Guangpeng Feng and Wei Li. (2024) . Effects of Hypoxia Stress on Survival, Antioxidant and Anaerobic Metabolic Enzymes, and Related Gene Expression of Red Swamp Crayfish *Procambarus clarkii*. *Biology*, 13(1):33. doi: 10.3390/biology13010033.
- 14 Hamasaki, K., Dan, S., and Kawai, T. (2023). Reproductive biology of the red swamp crayfish *Procambarus clarkii* (Girard, 1852)(Decapoda: Astacidea: Cambaridae): A review. *Journal of crustacean biology*, 43(4), ruad057.
- 15 三浦憲人. (2014). アメリカザリガニによるオニバスへの影響に関する観察. *Bull. Hoshizaki Green Found*, 17, 335337.
- 16 環境省. (2023). アメリカザリガニ対策の手引き. 環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室.
- 17 西原昇吾. (2020). アメリカザリガニの侵入と水生生物への影響.

- 18 Watanabe and Ohba. (2022). Comparison of the community composition of aquatic insects between wetlands with and without the presence of *Procambarus clarkii*: a case study from Japanese wetlands
- 19 Quang-Tuong Luong, Koki R. Katsuhara and Kazuyoshi Nakata. (2024). Predation on eggs and larvae of the Japanese brown frog *Rana japonica* Boulenger, 1879 by the invasive crayfish *Procambarus clarkii* (Girard, 1852) (Decapoda: Astacidea: Cambaridae) under laboratory conditions.
- 20 竹内将俊, 稲垣仁太, 横山能史. (2011). トウキョウサンショウウオ幼生の生存に及ぼすアメリカザリガニの影響. 環動昆, 22(1), 33-37.
- 21 大熊啓斗, 河原豪. (2025). 滋賀県甲賀市で確認されたアメリカザリガニによるヤマトサンショウウオ捕食事例. 伊豆沼・内沼研究報告, 19, 1-5.
- 22 高橋清孝 編. (2017). よみがえる魚たち.
- 23 Angeler, D. G., Sánchez-Carrillo, S., García, G., and Alvarez-Cobelas, M. (2001). The influence of *Procambarus clarkii* (Cambaridae, Decapoda) on water quality and sediment characteristics in a Spanish floodplain wetland. Hydrobiologia, 464(1), 89-98.
- 24 環境省. (2016). 二次的自然を主な生息環境とする淡水魚保全のための提言.
- 25 牛見悠奈, 白石理佳, 中田和義. (2015). 好適なサイズの人工巣穴を用いた外来種アメリカザリガニの駆除効果. 応用生態工学, 18(2), 139-145.
- 26 芦澤淳, 久保田龍二, 高橋清孝. (2018). アメリカザリガニの駆除に使用する罠の効果的使用方法の検討. 保全生態学研究, 23(1), 75-86.
- 27 鈴木正貴, 佐藤未来, 辻盛生. (2023). アメリカザリガニの捕獲効率向上を目的とした市販籠トラップの改良. 2023年度(第72回)農業農村工学会大会講演会講演要旨集, 407-408.
- 28 鈴木正貴, 齋藤滉亮, 藤井彩矢, 辻盛生. (2023). アメリカザリガニの捕獲効率向上を目的とした改良市販トラップの長時間設置の効果検証. 2025年度(第74回)農業農村工学会大会講演会講演要旨集.
- 29 高橋清孝・長谷川政智. (2024). 変わりゆく里山水辺の生き物たち -新たなアメリカザリガニ防除技術による 里山水辺の生態系復元・保全戦略.
- 30 中田和義, 竹原早恵, 白石理佳. (2017). 外来種アメリカザリガニの駆除に用いるペットボトル製トラップの検討. 日本ベントス学会誌, 71(2), 90-101.
- 31 芦澤淳, 長谷川政智, 高橋清孝. (2017). アメリカザリガニの捕獲罠に使用する誘引効果および費用対効果が高い餌の検討, 伊豆沼・内沼研究報告, 11:83-93.
- 32 中田和義. (2018). アメリカザリガニの生態をふまえての有効な駆除手法, CANCER, 27:139-141.
- 33 白石理佳, 牛見悠奈, 中田和義. (2015). 外来種アメリカザリガニの駆除に用いる籠と使用餌. 応用生態工学, 18(2), 115-125.
- 34 農林水産省. (2025). 稲作の現状とその課題について.

- 35 廣野貴司, 小松本慎二, 後藤真里. (2025). 水田畦畔の漏水被害防止に向けたアメリカザリガニの低密度管理のための方策, 第 82 回農業農村工学会京都支部研究発表会講演要旨集, 238-239.
- 36 廣野貴司, 鈴木啓子, 河村邦生. (2023). アメリカザリガニに起因する水田畦畔の漏水被害の実態及び予防・対処技術の考察, 第 80 回農業農村工学会京都支部研究発表会講演要旨集, 46-47.
- 37 廣野貴司, 鈴木啓子, 後藤真里. (2024). アメリカザリガニに起因する水田畦畔の漏水被害の予防と対策, 第 81 回農業農村工学会京都支部研究発表会講演要旨集, 174-175.
- 38 若杉晃介, 藤森新作, 北川巖. (2008). アメリカザリガニの畦畔掘削による漏水の実態と対策技術.
- 39 農林水産省. (2025). 地域の共同活動を軸とした農業用ため池の管理・保全の取組事例集(令和7年3月).
https://www.maff.go.jp/j/nousin/bousai/bousai_saigai/b_tameike/attach/pdf/zirei-52.pdf
- 40 農林水産省. (2025). 防災重点農業用ため池の廃止工事における生態系配慮について.
- 41 環境省東北地方環境事務所. (2010). 池干しによるオオクチバス等駆除マニュアル.
- 42 林紀男. (2018). 池水位の攪乱がアメリカザリガニに及ぼす影響, *Cancer*27:143-147.
- 43 林紀男. (2022). ため池の水位攪乱による池水環境の保全 アメリカザリガニ低密度管理とその波及効果. *日本水処理生物学会誌*, 58(3), 107-114.
- 44 北海道開発局 防災課 水防災教育用資料 実験素材集.
<https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/jg/bousai/PDF/jikken/sozai19.pdf>
- 45 環境省 HP: 特定外来生物防除実施要領.
https://www.env.go.jp/nature/intro/llaw/files/jisssshi_youryou.pdf
- 46 藤本泰文. (2013). 電気ショッカーボート, 定置網, 刺網のオオクチバスに対する駆除効果の比較. 湖沼復元を目指すための外来魚防除・魚類相復元マニュアル ~伊豆沼・内沼の研究事例から~, 77-82.
- 47 Maezono, Y. and Miyashita, T. (2004). Impact of exotic fish removal on native communities in farmponds. *EcologicalResearch*, 19(3), 263-267.
- 48 環境省 HP: アメリカザリガニの規制内容と手続き.
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/regulation/kisei.html#qa3>
- 49 環境省 HP: アメリカザリガニの飼養等基準.
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/regulation/shiyou.html>
- 50 環境省パンフレット.
<https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/files/amezari/kisei.pdf>

- 51 水産庁 HP：都道府県ごとの遊漁のルール・マナー。
<https://www.jfa.maff.go.jp/j/enoki/yugyo/rule.html>
- 52 環境省 HP：種の保存法に基づく国内希少野生動植物種一覧。
<https://www.env.go.jp/nature/kisho/domestic/list.html>
- 53 環境省 HP：種の保存法関係 様式等。
<https://www.env.go.jp/nature/kisho/aces-format.html>
- 54 環境省 HP：地方環境事務所のお問合せ先一覧。
<https://www.env.go.jp/nature/kisho/kisei/contact/>
- 55 一般財団法人 地方自治研究機構。(2025)。都道府県や市町村における希少野生生物の保護に関する条例(令和7年8月時点)。
https://www.rilg.or.jp/htdocs/img/reiki/118_endangered_species.htm
- 56 BUZZMAFF ばずまふ(YouTube 農林水産省公式チャンネル)「【注意喚起】農業用ため池の危険性について伝えたい」
https://www.youtube.com/watch?v=-4bXpH3Qfek&list=PLVc03uX0IwZsv0r0Nxz5XkGYi6GITP_Ns
- 57 農林水産省農村振興局整備部防災課。(2023)。ため池の安全対策事例集(令和5年3月)
https://www.maff.go.jp/j/nousin/bousai/bousai_saigai/b_tameike/attach/pdf/anzen-3.pdf
- 58 多面的機能支払交付金第三者委員会。(2025)。令和6年度第2回配布資料, p.10.
https://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai/n_sansya/attach/pdf/250225-6.pdf
- 59 農林水産省 HP：外部組織との連携に関するプロセス事例集。
<https://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/attach/pdf/240806-1.pdf>
- 60 環境省 HP：アメリカザリガニに関する解説
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/amezari.html>
 外来種問題に関するパンフレット・リーフレット
<https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/poster.html>
 学習ツール
<https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/tool.html#sec14>

7.3 お問合せ窓口等

◆外来生物等に関するお問合せ先

◎各都道府県の外来種担当部局

No.	都道府県	部署名	郵便番号	住所	TEL
1	北海道	環境生活部自然環境局	060-8588	札幌市中央区北3条西6丁目	011-204-5203
2	青森県	環境生活部自然保護課	030-8570	青森市長島一丁目1-1	017-734-9257
3	岩手県	環境生活部自然保護課	020-8570	盛岡市内丸10-1	019-629-5371
4	宮城県	環境生活部自然保護課	980-8570	仙台市青葉区本町三丁目8-1	022-211-2673
5	秋田県	環境生活部自然保護課	010-8570	秋田市山王四丁目1-1	018-860-1614
6	山形県	環境エネルギー部みどり自然課	990-8570	山形市松波二丁目8-1	023-630-3174
7	福島県	生活環境部自然保護課	960-8670	福島市杉妻町2-16	024-521-7210
8	茨城県	県民生活環境部環境政策課	310-8555	水戸市笠原町978-6	029-301-2940
9	栃木県	環境森林部自然環境課	320-8501	宇都宮市埴田1-1-20	028-623-3207
10	群馬県	環境森林部自然環境課	371-8570	前橋市大手町1-1-1	027-226-2872
11	埼玉県	環境部環境科学国際センター	347-0115	加須市上種足914	0480-70-8331
12	千葉県	環境生活部自然保護課	260-8667	千葉市中央区市場町1-1	043-265-3601
13	東京都	東京都環境局自然環境部計画課	163-8001	新宿区西新宿2丁目8-1	03-5388-3548
14	神奈川県	環境農政局緑政部自然環境保全課	231-8588	神奈川県横浜市中区日本大通1	045-210-4310
15	新潟県	環境局環境対策課	950-8570	新潟市中央区新光町4-1	025-280-5151
16	富山県	生活環境文化部自然保護課	930-0005	富山市新桜町5-3	076-444-3397
17	石川県	生活環境部自然保護課	920-8580	金沢市鞍月1丁目1	076-225-1476
18	福井県	安全環境部自然環境課	910-8580	福井市大手3丁目17-1	0776-20-0305
19	山梨県	環境・エネルギー部自然共生推進課	400-8501	甲府市丸の内1-6-1	055-223-1520
20	長野県	環境部自然保護課	380-8570	長野市大字南長野字幅下692-2	026-235-7178
21	岐阜県	環境生活部環境生活政策課	500-8570	岐阜市藪田南2丁目1-1	058-272-1111
22	静岡県	くらし・環境部環境局自然保護課	420-8601	静岡市葵区追手町9-6	054-221-3332
23	愛知県	環境政策部自然環境課	460-8501	名古屋市中区三の丸3-1-2	052-954-6230
24	三重県	農林水産部みどり共生推進課	514-8570	津市広明町13番地	059-224-2578
25	滋賀県	琵琶湖環境部自然環境保全課	520-8577	大津市京町四丁目1-1	077-528-3483
26	京都府	府民環境部自然環境保全課	602-8570	京都市上京区下立売通新町西入数ノ内町	075-414-4706
27	大阪府	環境農林水産部みどり推進室みどり企画課	559-8555	大阪市住之江区南港北1丁目14-16	06-6210-9557
28	兵庫県	環境部自然・鳥獣共生課	650-8567	神戸市中央区下山手通5丁目10-1	078-362-3274
29	奈良県	水循環・森林・景観環境部景観・自然環境課	630-8501	奈良市登大路町30	0742-27-8757
30	和歌山県	環境生活部環境政策局環境生活総務課	640-8585	和歌山市小松原通一丁目1	073-441-2779
31	鳥取県	生活環境部緑豊かな自然課	680-8570	鳥取市東町1丁目220	0857-26-7199
32	島根県	環境生活部自然環境課	690-8501	松江市殿町128	0852-22-6516
33	岡山県	環境文化部自然環境課	700-8570	岡山市北区内山下二丁目4-6	086-226-7310
34	広島県	環境県民局自然環境課	730-8511	広島市中区基町10-52	082-513-2933
35	山口県	環境生活部自然保護課	753-8501	山口市滝町1-1	083-933-3050
36	徳島県	危機管理環境部グリーン社会推進課	770-8570	徳島市万代町1丁目1	088-621-2263
37	香川県	環境森林部みどり保全課	760-8570	高松市番町四丁目1-10	087-832-3214
38	愛媛県	県民環境部自然保護課	790-0001	松山市一番町4-2	089-912-2368
39	高知県	林業振興・環境部自然共生課	780-0850	高知市丸ノ内1丁目7-52	088-821-4842
40	福岡県	環境部自然環境課	812-8577	福岡市博多区東公園7-7	092-643-3367
41	佐賀県	県民環境部有明海再生・自然環境課	840-8570	佐賀市内1丁目1-59	0952-25-7080
42	長崎県	県民生活環境部自然環境課	850-8570	長崎市尾上町3-1	095-895-2381
43	熊本県	環境生活部自然保護課	862-8570	熊本市中央区水前寺6丁目18-1	096-333-2274
44	大分県	生活環境部自然保護推進室	870-8501	大分市大手町3丁目1-1	097-506-3022
45	宮崎県	環境森林部自然環境課	880-8501	宮崎市橋通東2丁目10-1	0985-44-2624
46	鹿児島県	環境林務部自然保護課	890-8577	鹿児島市鴨池新町10-1	099-286-2616
47	沖縄県	環境部自然保護課	900-8570	那覇市泉崎1-2-2	098-866-2243

◎地方農政局等

北海道開発局農業水産部農業振興課	TEL：011-709-2311
東北農政局農村振興部農村環境課	TEL：022-221-6256
関東農政局農村振興部農村環境課	TEL：048-740-0515
北陸農政局農村振興部農村環境課	TEL：076-232-4533
東海農政局農村振興部農村環境課	TEL：052-223-4631
近畿農政局農村振興部農村環境課	TEL：075-414-9052
中国四国農政局農村振興部農村環境課	TEL：086-224-9417
九州農政局農村振興部農村環境課	TEL：096-300-6436
沖縄総合事務局農林水産部農村振興課	TEL：098-866-1652

◆特定外来生物の取扱い等に関するお問合せ先

最寄りの環境省地方環境事務所野生生物課

<http://www.env.go.jp/nature/intro/reo.html>

◆漁具に関わる特許や購入等に関するお問合せ先

漁具名	お問合せ先	参考情報
連続捕獲装置 人工水草	NPO 法人シナイモツゴ郷の会 ◆TEL：090-1377-2844	NPO 法人シナイモツゴ郷の会 HP https://www.shinaimotsugo.com/
アタッチメント 付カゴ網のアタ ッチメント (文中の角型カ ゴ網(改良型))	岩手県立大学 研究・地域連携室 ◆メールアドレス： chizai@ml.iwate-pu.ac.jp ◆TEL：019-694-3330	特許第 7807072 号 (令和 8 (2026) 年 1 月 19 日登録) 岩手県立大学総合政策学部 鈴木正貴先生の研究室で開発

◆本手引に関するお問合せ先

農林水産省 農村振興局 農村政策部 鳥獣対策・農村環境課 TEL：03-3502-6091